

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 令和4年3月1日 事業所名 きらり水島 (回収率 100%)

	チェック項目	は		工夫している...	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
		い	い		
		え	え		
1.	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	8	0	十分なスペースが確保されている 広い部屋がある事で活動内容が豊かになったと思います	
2.	職員の配置数は適切である (10名以下のCに対しT3名以上)	8	0	必ず保育士も配置されている 余裕を持って職員配置できている	
3.	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	4	今後スロープや車椅子での出入りができるよう修繕する予定 現在の利用児に合わせた配慮はされている(バリアフリーの必要性があまりない) 玄関のドアが開き戸。手すりがない所、段差のあるところもある	
4.	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	正規職員はOJT、目標管理活動を実施し、上位職員と各自の業務目標について設定振り返り面談を行っている 職員間で課題を振り返り、次に活かす様に心掛けている	
5.	保護者等向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0		
6.	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	わからない	
7.	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0	わからない	
8.	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	自己研鑽をしたいが自己負担で行うものが多く様々な理由、その為に研修を選んだり諦めたりする事がある。理由によって金銭的なことも少しは補助していただきたい。	法人にとって必要な研修は法人も補助を行い、報告会などで情報を共有している。
9.	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	職員間でも子どもの課題を共有して、必要な支援をプランに入れている	
10.	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0		
11.	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	朝礼等で調整設定している	職員全員がプログラム立案が出来るように
12.	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	内容だけでなく、実施者(主職員)も持ち回りで進めている 別室も使えるようになり、子供の粗大な活動や、より幅のある活動ができたり、保護者とも子供に話しを聞かれたくないような話しを気兼ねなくされているから	
13.	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	3	土曜のみ開所のため、平日の課題設定は行っていない 休日、長期休暇のみの利用児がほとんどだが、活動の変更は行っていない	

14.	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成している。	8	0	全利用児が個別とグループ活動を経験できるようスケジュールリングしている 子どもにより 参加人数をかえている。別室でもグループ活動が行えている（自発も同じ） 個別のお勉強と小集団のあつまりなどに分けて設定している	
15.	支援開始前には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	8	0	朝礼、昼礼にて確認を行っている。	
16.	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	1日分の振り返りを個別支援計画書についての会議にて毎日行い、書面にも残して職員間で共有出来るようにしている 本日の様子、その時の様子を話せないときは紙面にて知らせている 1日の終わりではなく、前日午前分と当日午後分を合わせて、昼礼にて行っている 昼礼にてその日の子供の様子、保護者の様子などを振り返り、職員間で共有している。	
17.	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	16と同様。また利用毎の連絡帳が記録になっている 子どもの様子を見て、ねらいにそって、子どもの興味がひけるような課題づくりを話し合い工夫している（自発も同じ）	
18.	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	利用毎、計画実施期間毎、年間でモニタリング実施	
19.	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8	0	ADL 支援、自己肯定感を高められる活動、余暇（遊び）支援、学校や家庭生活を想定した経験活動等を意識して組み立てている	
20.	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	管理者兼児発管や現場リーダーが参加 管理者と現場職員で立案している	
21.	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	2	自主送迎のため、送迎に関する学校との共有はない。行事などは保護者を通じて情報を得ている 連絡帳などを用いて、学校での様子や課題を把握している	学校と連絡帳を介したやりとりが中心となっている。直接情報を共有する機会は限られている。
22.	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	0	今後医ケア児の受け入れを予定している	2月より医療ケアが必要なお子さんの受け入れが開始となり、今後は医療連携の機会が増える。
23.	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2	書面や直接の引き継ぎを受け、必要に応じて電話での聞き取りを行なっている 当てはまる場合とない場合があると思います	就学資料 10-1 をもとに話し合う機会もある。
24.	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか（他事業所への移行ケースを含む）	8	0	当事業所は小2までの受け入れのため、3年以上以降の他事業所への引き継ぎは主に書面にて行なっている 状況表の作成 状況表を用いて、子どもの様子がわかる書式を郵送している。また、必要なおひさんは、職員、学校側、相談員などと担当者同士でケース会議を設定	

				している	
25.	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	児発センと協働での勉強会計画実施や、助言・指示を仰ぐ等の連携がある	
26.	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	7	コロナ禍で外部に出での交流が図れていない	コロナ禍で一緒に活動することに制限があり、実施できていない。
27.	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4	今年度はこども部会等からの発信がなく、会自体が未実施	
28.	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	利用日だけでなく ICT を活用することにより保護者のタイミングで情報共有したり相談を受ける機会が増えた 送迎や引き継ぎ時にコミュニケーションをとっている	
29.	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている (勉強会等含む)	7	1	ペアトレは幼児対象で、学齢期対象のものも今後必要と感じている。勉強会はサポートブック作成等、幼児学童合同で案内。 幼児は取り組んでいる 幼児の保護者対象に行っている	
30.	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時に説明 そのように努めている	
31.	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	対応職員だけでなく、必要に応じて事業所内で話し合ってから返答する場合もある。会議で共有し、次回の支援に反映させている 相談内容に関して 判断に迷ったときは 保護者に了承を得て 他の職員と相談、話し合いをして保護者に提案もしている	
32.	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7	保護者会はないが、送迎の時間や勉強会・座談会への参加等を通して会話する機会はある 今年度は実施していない コロナ禍の為実施できていない 開催は行っていないが、会の紹介は行なっている	勉強会や座談会の案内を行ったが、コロナ化で実施できていない。
33.	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	ご意見相談に対して迅速な対応を心がけている	
34.	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	毎月通信を発行	
35.	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	鍵付き棚にて個人のファイルは保管している。研修等を通し職員の個人情報取扱いに対する意識を高めている	
36.	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	単独利用のため、事業所内での出来事は連絡帳(書面)引き継ぎ(対話)ICT(写真や動画)の手段で伝えている。意思疎通に関しては児の状態に応じてキャッチ・発信しやすい手段を獲得できるよう支援したり保護者に提案したりしている "その子供に スケジュールの知らせ方、自分の気持ちの伝え方が適切なのか 疑問に思う事がある(自発も同じ)	
37.	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4	公益活動に利用児や保護者を案内して、地域住民との交流を図る機会は設けている	

38.	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知している	8	0	マニュアルは定期的に見直し、職員に回覧したり、必要な時に閲覧できるよう事務所内の手に取りやすい場所に置いたりしている。契約時に保護者に利用案内にて説明し、災害月間や感染症拡大のタイミング等に再周知している。	
39.	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	隣接の園と毎月合同＋土曜は事業所単位＋法人一斉に実施	
40.	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	人権倫理委員会が中心となり、毎年研修や意識調査アンケート等を実施。事業所内でも目標行動を決めて毎月振り返っている。	
41.	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了承を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	1	該当のケースが今年度はないが、決定説明計画記録の流れは把握している 該当児童はいないため記載はない。	
42.	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	おやつ提供をしており、事前におやつの種類について保護者に確認をとっている。またクッキングでも材料を明示して実施している おやつ提供の前に他の職員に確認してもらっている	
43.	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1	ヒヤリハット報告書はファイリングしており、発生後の朝礼か昼礼で周知・対策を話し合っている。月の職員会議にて再度振り返り、1ヶ月経過したら対策の効果の確認を行なっている 事例集ではないが、当月のまとめを職員会議で周知している	